日本経済新聞（朝刊/全国版）に掲載、鈴木敏恵の寄稿(日経電子版↓)

https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD253R60V20C23A9000000/

日本経済新聞　オピニオン欄「私見卓見」

私見卓見

ＤＸで「意志ある学び」の実現を

シンクタンク未来教育ビジョン　代表　鈴木　敏恵

教育デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の象徴として、子どもたちが1人1台の情報端末を持ち、紙の教科書に代わりデジタル教科書を活用できるようになった。一斉授業から自分のペースで学べる個別最適化への移行がキーワードだ。

デジタル教科書は限られた文章と写真で知識を伝達していた紙の教科書とは異なり、視覚や音声による多様な表現で学べ、さらに深くデータや教材へリンクできる機能もある。しかく多くの場合、従来通り先生の指示のもと、授業時間に教室で展開されている。理解のしやすさには有効だが、先生が生徒に教えるというスタイルはあまり変わっていない。

ただ、これではＤＸとは言えない。ＤＸとはデジタル化でこれまでの在り方が根本的に変わることだからだ。ＤＸは今までやってきたことをデジタル化することでも、生成ＡＩ（人工知能）に任せることでもない。デジタル教科書を教えるツールとして捉えるのではなく、欲しい情報がある時に、子どもたち自身が獲得できる手段として生かす、という考え方もあるはずだ。

これからの時代に求められるのはコンピューターやＡＩを活用できるスキルでも企業が求める人材を輩出する社会人基礎力でもない。求められるのはＡＩが不得意な新たな価値を創造できるアイデアや唯一性だ。

そのためには新しい価値を創造できる知性と感性を備えた人間だからこそ果たせることを尊重する教育が必要となる。スキルの習得だけではなく、子どもたちが根拠を持って自分の考えを述べる機会をもっと増やすべきだろう。

自ら未来へビジョンを描き、仲間とともに課題を解決しつつゴールへと向かえる力と、あふれる情報に翻弄されずに自分の頭で考える力がいる。考えるためには自ら知識や情報を獲得することが重要で、事実や真実こそ大事だという意志が欠かせない。

もし、学校で使っているすべての教科のデジタル教科書をまとめて検索する機能があれば、子どもたちが手元の端末で自ら欲しい知識や情報を的確に得られる。文部科学省にはそうしたシステムの開発にあたってほしい。

クレジット：2023 年 10 月 18 日　日本経済新聞朝刊/掲載許諾取得済

教育DX

デジタル教科書

Project-Based Learning